

専門学生・大学生に対する
違法薬物に関するアンケート調査結果について

平成29年3月

京都府健康福祉部薬務課

京都府では平成23年10月に、府民、特に青少年の薬物乱用ゼロを目指し、PTA、大学関係者、業界団体等様々な関係者や関係団体が協力・協働して予防啓発活動等に取り組む「きょうと薬物乱用防止行動府民会議」を設置し、薬物乱用防止に向けた普及啓発、平成27年1月からは「京都府薬物の濫用の防止に関する条例」による規制強化など、オール京都体制で薬物乱用の未然防止に取り組んできました。

一方、依然として薬物乱用が大きな社会的問題であり、今もなお、薬物に関する事件や事故は後を絶たず、平成27年秋以降は、ここ京都においても、若年層による大麻事案が連続して発生するなど、薬物乱用は広がりを見せる大きな社会問題となっております。

そこで、今後の薬物乱用対策のさらなる取組を展開するため、違法薬物に対する意識や大麻乱用の現状を把握すべく、京都外国語大学薬物乱用防止学生委員会（ドラスタ）と連携して、京都府内の大学生や専門学生を中心に違法薬物に関する意識調査を実施しました。

本アンケート結果が、大学・専門学校内外における薬物乱用防止を一層推進していくための一助になることを願っています。

京都府健康福祉部薬務課長
半井 達弥

I 調査対象

調査手法 : Web アンケート方式

調査期間 : 平成28年7月1日～10月31日

回答者数 : 899人

(専門学生 : 252人、大学生 : 640名、大学院生 : 7人)

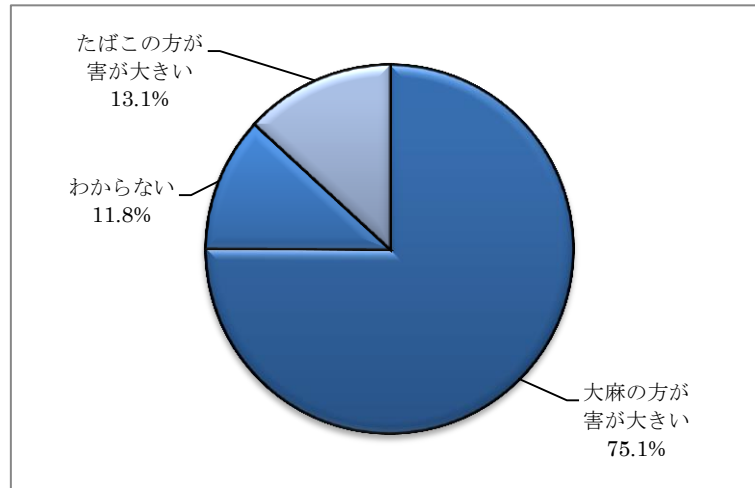
アンケート画面 (抜粋)

| | |
|--|--|
| Q5. 「たばこ」と「大麻」、 どちらの害が大きいと思 いますか。 <small>必須</small> | <input type="radio"/> たばこの方が害が大きい <input type="radio"/> 大麻の方が害が大きい <input type="radio"/> 分からない |
| Q6. 違法薬物を使用す ることについて、興味・ 好奇心をもったことがあ りますか。 <small>必須</small> | <input type="radio"/> 非常に興味がある <input type="radio"/> ある程度興味がある <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> あまり興味はない <input type="radio"/> ほとんど興味はない |
| Q7. 今までに違法薬物 を使用するよう誘われた ことはありますか。 <small>必須</small> | <input type="radio"/> ある <input type="radio"/> ない |
| Q8. 違法薬物を手に入 れることが可能だと思 いますか。 <small>必須</small> | <input type="radio"/> 絶対不可能 <input type="radio"/> ほとんど不可能 <input type="radio"/> 少々苦勞するが手に入る <input type="radio"/> 簡単に手に入る <input type="radio"/> わからない |
| Q9. あなたは違法薬物 を使うことについてどの ように考えていますか。 <small>必須</small> | <p><あてはまるものを全てお選びください></p> <p><input type="checkbox"/> 絶対使うべきでないし、許されることでない</p> <p><input type="checkbox"/> 1回くらいなら心や体へ害がないので使ってもかまわない</p> <p><input type="checkbox"/> 誘われて断れない場合は、使用しても仕方ない</p> <p><input type="checkbox"/> 悩みごとがあったり、疲れていたら使用してもよい</p> <p><input type="checkbox"/> 他人に迷惑をかけるないのであれば、使うかどうかは個人の自由である</p> <p><input type="checkbox"/> わからない</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p> <p>「その他」を選択された場合にご記入ください。</p> <input type="text"/> |

Ⅱ 集計結果

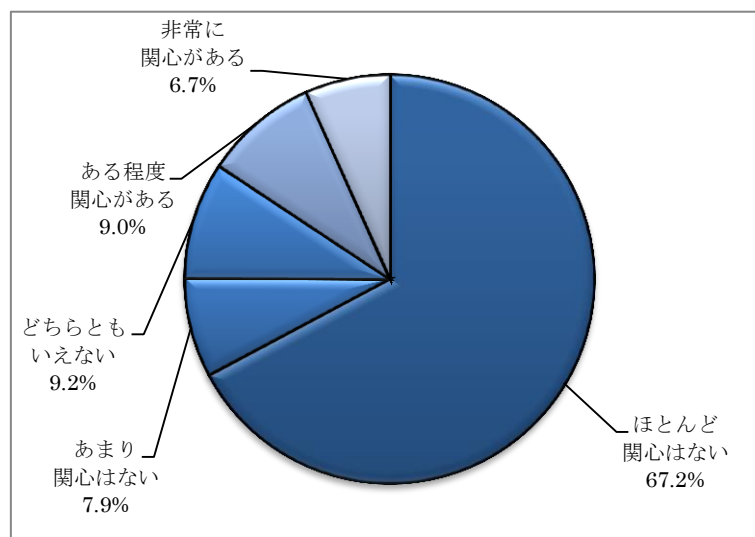
◇ Q. 「たばこ」と「大麻」、どちらの害が大きいかと思いますか。(1つに○)

| | | |
|------|-------|--------------|
| <回答> | 大麻 | 75.1% (675人) |
| | わからない | 11.8% (106人) |
| | たばこ | 13.1% (118人) |



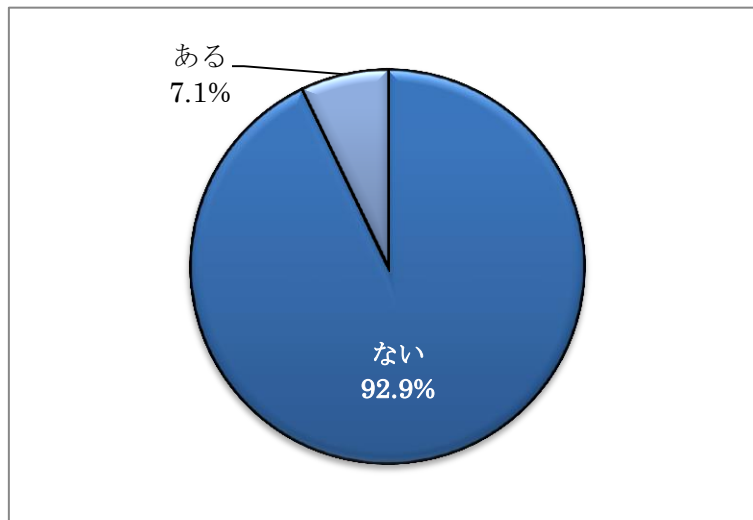
◇ Q. 違法薬物を使用することについて、興味・好奇心をもったことがありますか。(1つに○)

| | | |
|------|-----------|--------------|
| <回答> | 非常に興味がある | 6.7% (60人) |
| | ある程度興味がある | 9.0% (81人) |
| | どちらともいえない | 9.2% (83人) |
| | あまり興味はない | 7.9% (71人) |
| | ほとんど興味はない | 67.2% (604人) |



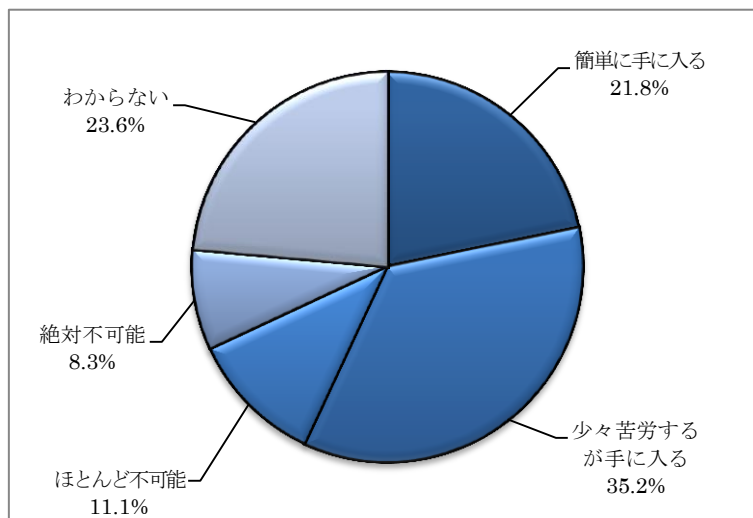
◇ Q. 今までに違法薬物を使用するよう誘われたことはありますか。
(1つに○)

<回答> ある 7.1% (64人)
ない 92.9% (835人)



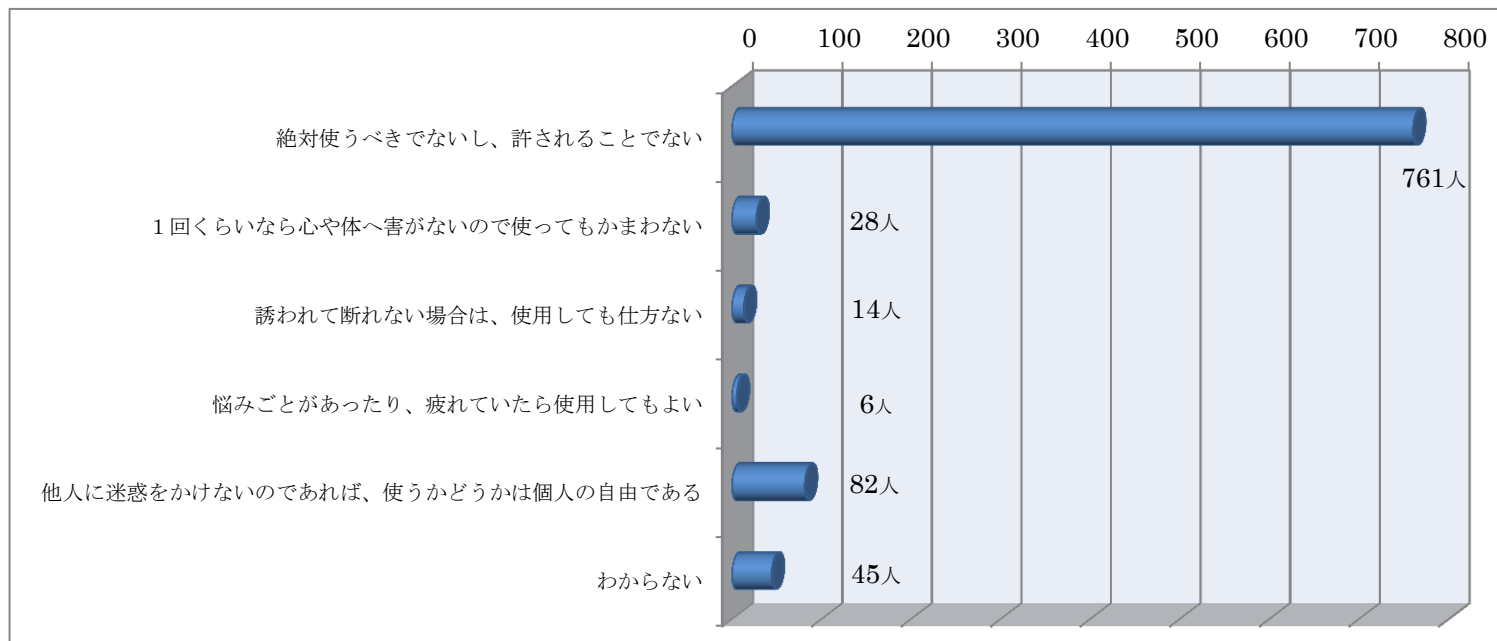
◇ Q. 違法薬物を手に入れることが可能だと思いますか。(1つに○)

<回答> 絶対不可能 8.3% (75人)
ほとんど不可能 11.1% (100人)
わからない 23.6% (212人)
少々苦勞するが手に入る 35.2% (316人)
簡単に手に入る 21.8% (196人)



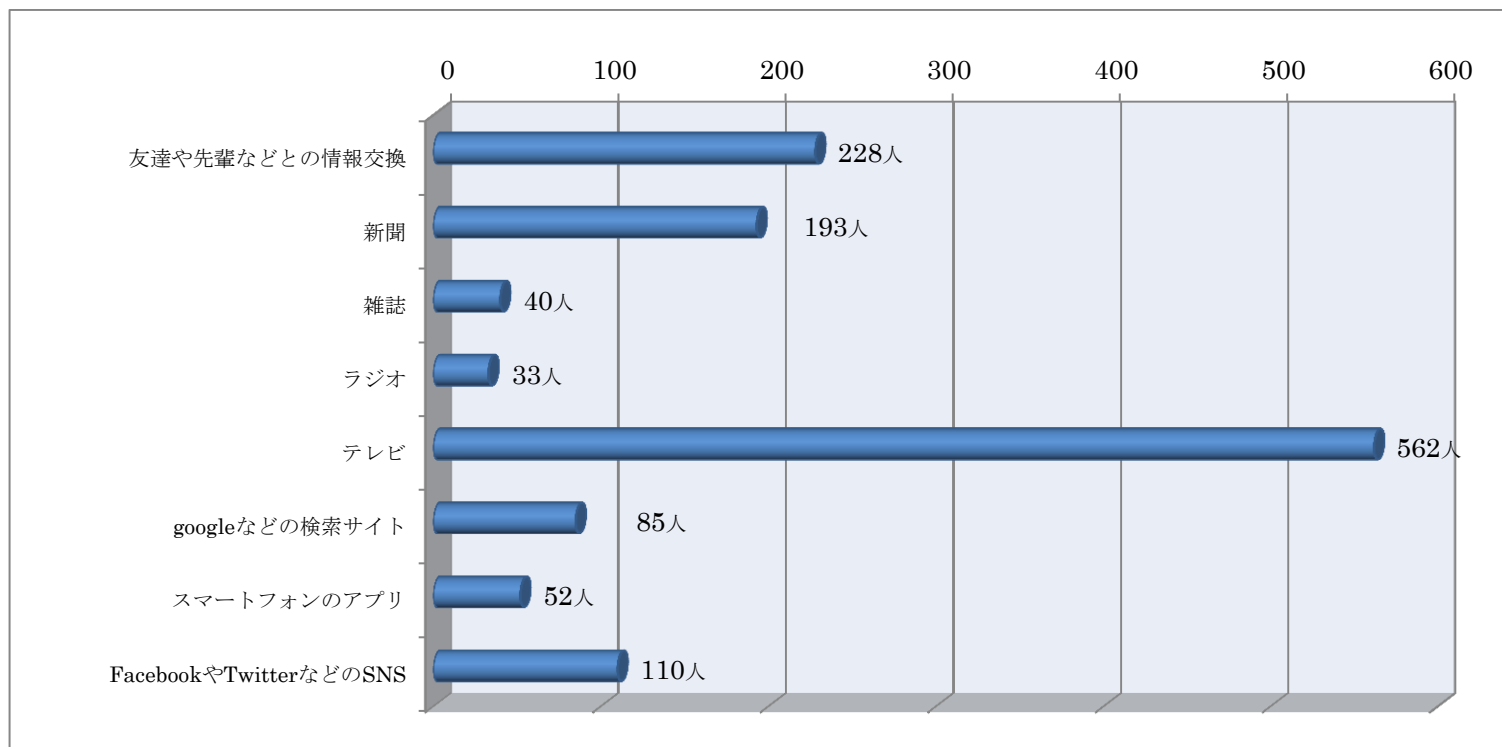
◇ Q. あなたは違法薬物を使うことについてどのように考えていますか。
(複数回答可)

<回答>



◇ Q. 日常的な話題はどこからよく入手しますか。(複数回答可)

<回答>



◇ Q. 違法薬物を使う人が増えているのは、どのような理由からだと思えますか。(自由記載)

| | |
|--------------------------|------|
| (1) 社会への不安・ストレス・悩み等 | 72 件 |
| (2) 現実逃避・一時的な欲求 | 37 件 |
| (3) 興味本位・好奇心 | 28 件 |
| (4) 先輩・上司の誘い | 22 件 |
| (5) インターネットの普及・簡単に手に入るから | 21 件 |
| (6) その他意見 | 67 件 |

合計 247 件

主な回答

- ・1回くらいなら甘い考えを持っている人が多いから(専門学校1年:男性)
- ・周りに使っている人が居て誘われ断れずに使い依存してしまうから(専門学校1年:女性)
- ・インターネットの普及による入手方法の多様化。不況(最近はそれ程でもないが)、ストレス社会といった不安さが招くココロの隙。反社会団体による圧力。子供たちの、親の共働きによる、愛情の希薄さを埋め合わせる目的。など。(専門学校1年:男性)
- ・沢山ありますが、恐らく「誘われた」や「ストレス」などの言い訳の類いだと思っています。誘われたなら断れば良いだけであり、ストレスなら今日なら誰でも持ちあわせています。

それらを理由に薬物を使用している者の共通点は基本的に意志が弱く他人に依存する傾向があると私は思っています。(専門学校1年:男性)

- ・自分で悩みを解決する力が弱くなっている、周囲との関係が希薄になりネットでのつながりが多様化しているから。(専門学校2年:女性)
- ・手軽に手に入る簡単ルートがあるからだと思う。初回は無料だったり、始めるきっかけが容易いから。(大学1年:女性)
- ・知識が不足しているなか、もっともらしい情報の入手が容易になっていること。特に大麻は、何故だめなのか啓発を受けてもわからないと思った。インターネットの情報のほうが、信憑性が高くみえてしまう。(大学1年:女性)

- ・小学校での薬物に関する教育が不十分であるから（大学2年：女性）
- ・ストレスフルな社会だから。大麻の規制緩和に関心を抱いている人は、日常生活に苦痛を感じる機会が多いのではないかと邪推している。（大学2年：男性）
- ・さまざまな社会的背景があると考えられる。インターネットの普及による違法薬物の入手が安易になったこと、違法薬物についての正しい知識が教育されていないこと、薬物に頼らざるを得なくなるほど充実しない生活状態にあること、などといった背景が考えられる。列举してもしきれないであろうが、さまざまな理由が複雑に絡み合いおこることであると考えられる。（大学2年：男性）
- ・タバコ、酒の延長として考えているから。（大学3年：男性）
- ・「脱法ハーブ 京都」のような検索ワードである程度の情報を得られるように、インターネットの普及によって薬物の入手が容易になったからではないか。（大学3年：男性）
- ・人生を棒に振るという意識がないんだろうなあと思います。そんなことするくらいなら献血なりドナーなりしてほしい。（大学3年：女性）
- ・親から愛情を感じられないような劣悪な家庭環境の中で育ったせいのできた心の穴を埋めるために、薬物に手を出すのだと思います。愛情で満たされなかった心を薬物や性行為などに依存することで自己を保っているのではないのでしょうか。

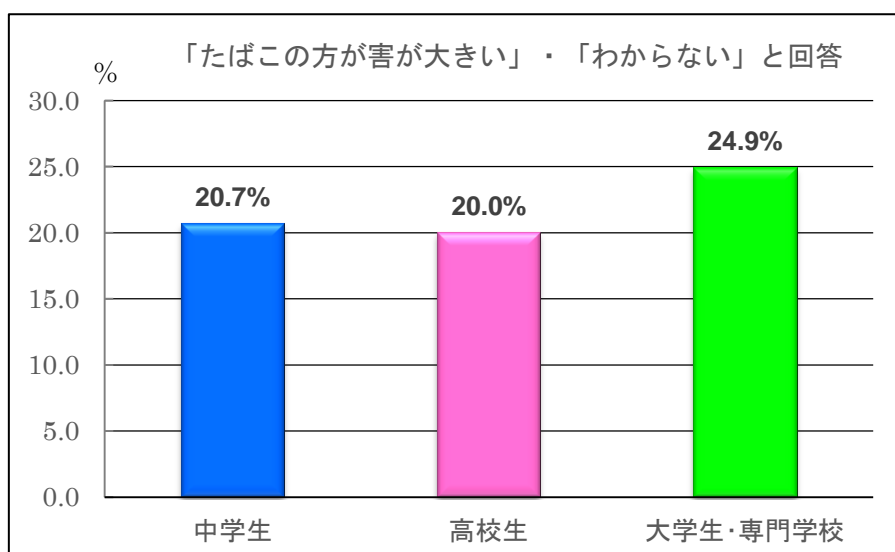
健全な心が育まれれば、そんなことにはならないでしょう。他にも、親が仕事で忙しすぎて子どもに目を向けてやれない等の社会的背景も原因の一つではないのでしょうか。（大学3年：男性）

- ・自分自身の個人で勝手にして迷惑かけないと思っているから。（大学4年：男性）
- ・増えているというよりは母数が縮小しているわりに流通量が変わらないだけでは??(使用者割合の増加)（大学院M1：男性）
- ・有益な作用と有害な作用があるという点では処方薬・酒・たばこ・大麻・覚せい剤等すべて同じである。それらについて違法であるかそうでないかの線を引くのは時代や文化によって異なっており、普遍的なものではない。現に日本で違法薬物とされているものが、諸外国では文化として嗜まれているケースは多くあり、グローバル化の時代にあってそうした文化の摩擦は避けることができない。違法とされているものの中にも副作用の強度にはばらつきがあり、合法とされている医薬品についても同様である。違法合法の境目、保険適用・適用外の境目など固定化せず常に見直す姿勢を持つことが大切ではないだろうか。（大学院M1：男性）

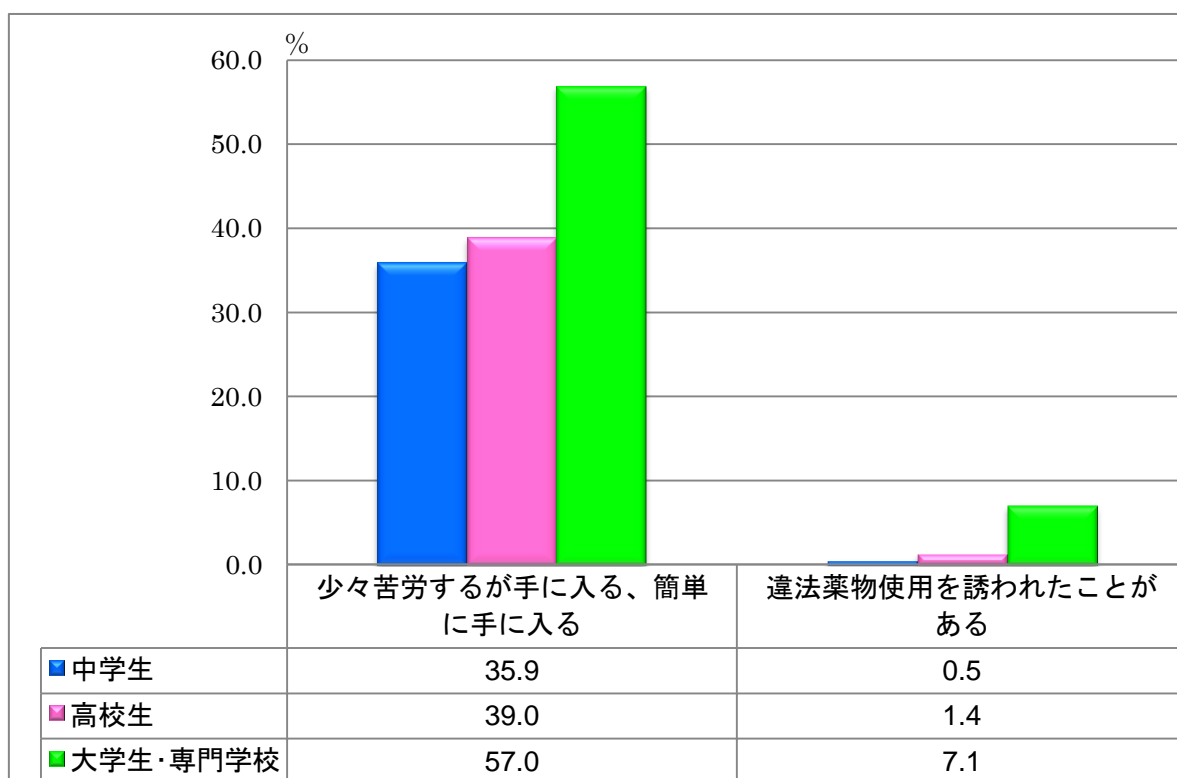
Ⅲ まとめ

近年、複数の少年が大麻所持で逮捕されたり、凶悪事件の犯人が大麻を使用していたりと大麻に関わる事件が相次いでいる。事実、平成27年以降、大麻事犯の検挙人員は2,000人以上となり、そのうち、20歳代及び未成年者の割合が約5割と、若年層による大麻の乱用傾向が増加していることが挙げられる。

本アンケートで、たばこと大麻で「どちらの害が大きいか」という問いに対し、「たばこ」または「わからない」と答えた学生が計24.9%おり、4人に1人の学生が違法薬物に対して誤った認識を持っていることが分かった。さらに、この誤った認識は、女子学生が17.2%に対して、男子学生が38.5%と、男子学生の方が2倍高い水準であることが分かった。また、本結果は、平成28年に京都府警が中学生・高校生を対象に行った同様のアンケート結果と比較しても、誤った認識をしている大学生・専門学校生が多いことが判明した（中学生：20.7%、高校生：20.0%）。このことから、大学生・専門学校生でも大麻の違法性や危険性についての正しい知識があまり浸透していないことがうかがえ、違法薬物の害に対する知識がない学生ほど、「大麻は害がない」などといった誤った情報を信用してしまうことが懸念される結果となった。

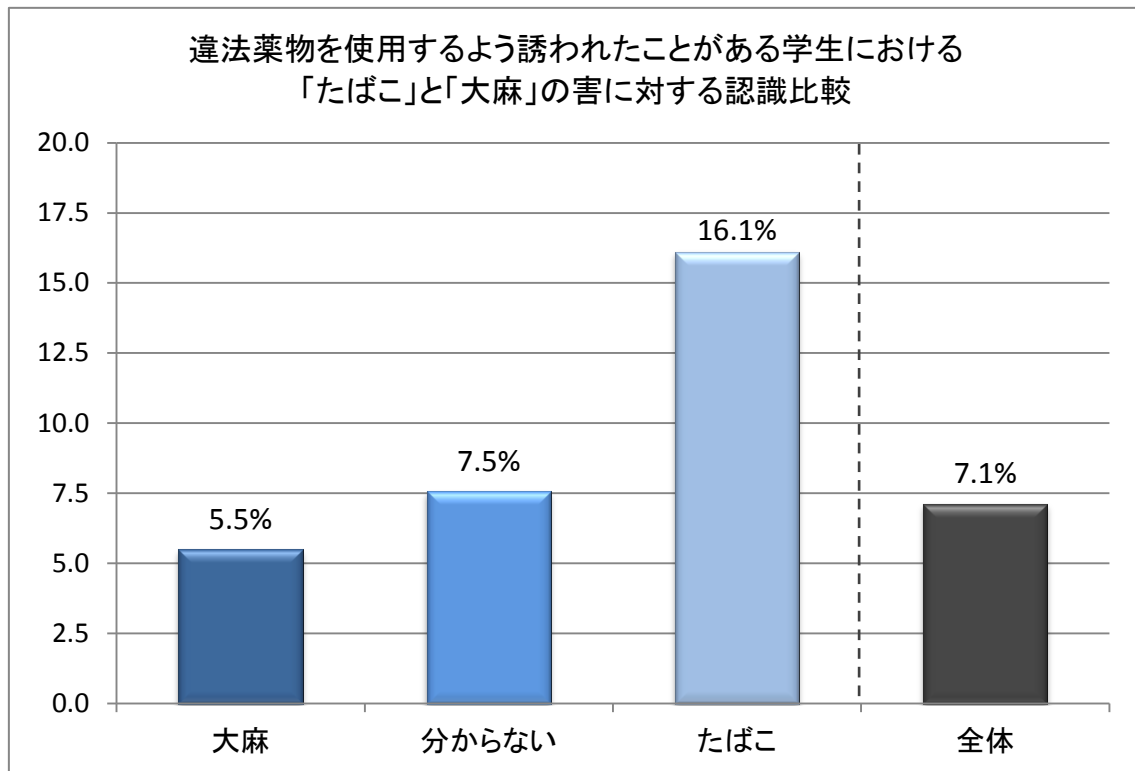


次に、「違法薬物を入手可能だと思うか」と「違法薬物の使用を誘われたことがあるか」という問いに対して、実に 57.0%の学生が「違法薬物を入手できる」と回答し、7.1%の学生が「違法薬物の使用を誘われたことがある」と回答した。この結果は、「違法薬物を入手可能だと思う」と回答した中学生 35.9%、高校生 39.0%、「違法薬物の使用を誘われたことがある」と回答した中学生 0.5%、高校生 1.4%よりも悪い結果となり、違法薬物が進学するごとに身近に迫っている実態が浮き彫りとなった。

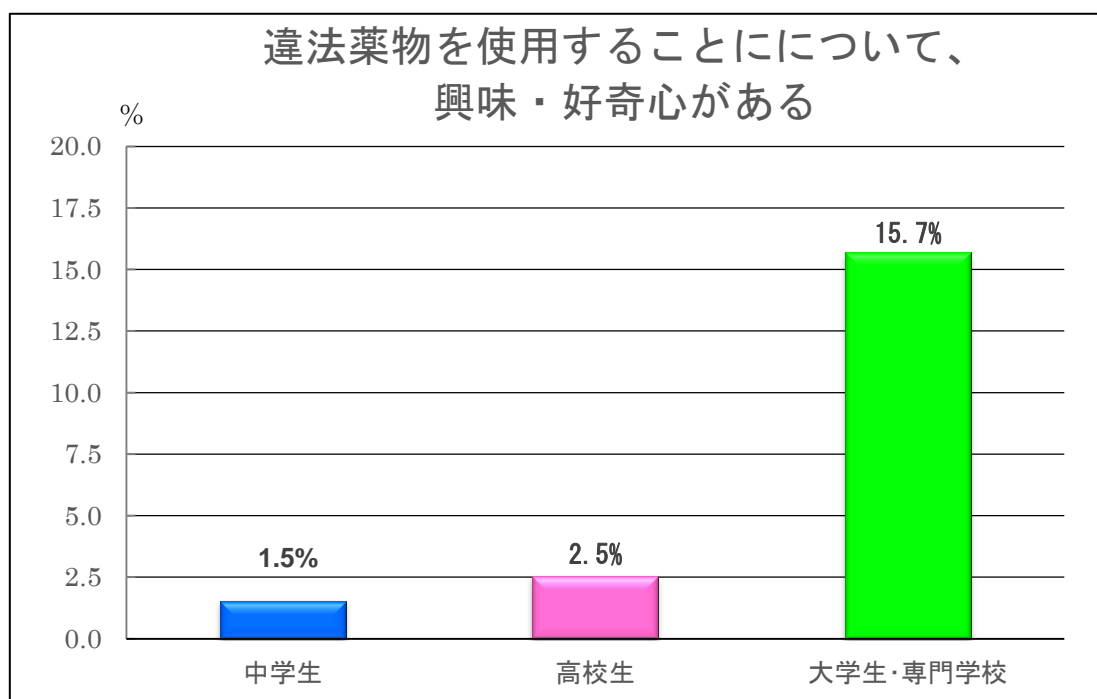


また、「違法薬物を使用するよう誘われたことがある」学生における「たばこ」と「大麻」の害に対する認識比較をしたところ、全体で7.1%（64人）が誘われたことがあると回答したが、「大麻の方が害が大きい」と回答した人の中で「誘われたことがある」と回答した人は、5.5%（37人）であるのに対し、「たばこの方が害が大きい」と回答した人の中で「誘われたことがある」と回答した人は、

16.1% (19人) となった。このことから、違法薬物に対する必要な知識が不足している学生は、違法薬物に近づくおそれが高くなり、誘われる可能性も高くなることがうかがえた。



次に、「違法薬物の使用に興味・好奇心があるか」という問いに対しては、「非常に興味がある」または「ある程度興味がある」と計 15.7%の学生が回答した。この結果は、「違法薬物の使用に興味・好奇心がある」と回答した中学生 1.5%、高校生 2.5%よりも大幅に跳ね上がる結果となった。また、「違法薬物を使うことについて」という問いに対して、「他人に迷惑をかけないのであれば、使うかどうかは個人の自由である」や「1回くらいなら心や体へ害がないので使ってもかまわない」といったように、使用については個人の自由であると捉えている学生が存在することが分かり、その多くが「たばこの方が害が大きい」と回答していた。



さらに、「違法薬物を使う人が増えている理由」として、「社会への不安・ストレス・悩み等」と回答した一方、2016年10月に公表された関西四大学「薬物に関する意識調査」集計結果で、薬物に関する相談窓口についてはほぼ6割の学生が知らないと回答していることから、違法薬物の危険性に対する正しい知識を伝えるだけでなく、薬物問題に直面してしまった場合、自分だけで抱え込まず、行政機関・警察・医療等の適切な相談窓口にご相談できるよう、情報発信を行っていく必要があると考える。

今回、京都府内の大学や専門学校に通う学生に無記名のWEBアンケートに協力いただき、学生が薬物乱用問題に関し、どのように認識しているか等をアンケートし、その内容を分析した。今後、各大学や専門学校と連携して、学生が違法薬物の誘惑に「NO」と言える気運を高める訴求力がある啓発活動を展開していく。

IV 参考資料

- 中学生に対する違法薬物に関するアンケート調査結果について
http://www.pref.kyoto.jp/fukei/anzen/shonen_s/hikou/enquete2016.html
- 高校生に対する違法薬物に関するアンケート調査結果について（平成 28 年）
http://www.pref.kyoto.jp/fukei/anzen/shonen_s/hikou/kouko-enquete2016.html
- 関西四大学「薬物に関する意識調査」集計結果 報告書
http://www.kansai-u.ac.jp/mt/archives/pdf/161020_n_report.pdf